

令和元年 11月 12日  
市議会議員 城森 史明

### 1、東海市「いきいき元気推進事業について」

東海市は、平成17年愛知県の78市町村の中で平均寿命が低いランクだったので、平成23年度から「いきいき元気推進事業」を開始し、「東海市しあわせ村」はその拠点となっている。

その事業において、最も興味を引かれたのは「運動・食生活応援メニュー」の提供という事業だった。

市民の健康診断とアンケートを元に、1人1人に合った運動と食生活の応援メニューを渡すという事業である。食生活応援メニューは、エネルギー、バランス、野菜、塩分の四つ葉で図示し、運動応援メニューは、市民に合った運動の強さを四つ星で表示している。例えばしあわせ村のハイキングコースには「ペース体感ゾーン」というのが設置されていて、一つ星から四つ星の健康ランクに応じて、30秒で歩く距離が路上にマークされており、自分の健康度合いに応じたウォーキング速度を体感できるようになっている。

健康のために、塩分を控えなさい・野菜を食べなさい・運動をしなさいだけにとどまらず上記のように具体的な行政の病気予防の取り組みがなされており、成果が上がっていくものと考えられる。本市においても同様な取り組みが必要であり、市民の健康に対する意識も向上するものと期待する。

### 2、焼津市公共下水道事業について

本市と同様焼津市は鯉節製造の盛んな町であり、本市の公共下水道における問題点が少しでも解決できないか大きな期待を持って臨んだが、鯉節工場の汚水は一切流入していないとの事で期待は大きく裏切られた。しかしながら下水処理場は建物の屋内に設置されており、そのために全く悪臭は認められなかった。しかも下水処理場に隣接し、市民プールや市民公園が造られていた。

財政的にも非常に苦しい経営状態で、一般会計繰入金は歳入の53%を占めており今後公共下水道事業は縮小予定で合併浄化槽を主体とする分散型に移行するとの事だった。

### 3、沼津港の活性化について

沼津港は特定地域振興重要港湾として選定され、平成19年には「みなとオアシス沼津」として認定を受け、みなとを核としたまちづくりの促進を進めている。

施設的には、①沼津魚市場イーノ(衛生管理対策が図られている) ②深海魚水族館

③港八十三番地飲食店街 ④大型展望水門「びゅうお」等からなる。

年間の入り込み客数は約166万人であり、首都圏からの日帰り客との事である。

首都圏という大きな市場はあるが、沼津港の活性化に対する行政の取り組みの熱意の大きさには大きな感銘を受けた。

本市も特定第三種漁港に指定されており、港の活性化は本市の活性化につながる。

きばらん海港まつりやお魚センター等を中心に、基本に帰って港の活性化について考えなければならないと思った。

以上